

様式1 令和3年度 山梨県立中央高等学校 通信制課程 評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	自尊心を高め、社会の中で自立する生徒を育てている。
-----------	---------------------------

山梨県立中央高等学校校長 古屋 はるみ

本年度の重点目標	きめ細かな指導により基礎・基本の定着を図り、自ら進んで学習に取り組む意欲を高め、生涯学習の基礎を培う。	達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	CHUOハーモニックプランに基づき、社会において自立できる生徒を育てる。		B	概ね達成できた。(6割以上)
	生涯を通じて自主的に健康で安全な生活を送ることができる実践力を育てる。		C	不十分である。(4割以上)
			D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価			
本年度の重点目標		年度末評価(令和4年2月)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	きめ細かな指導により基礎・基本の定着を図り、自ら進んで学習に取り組む意欲を高め、生涯学習の基礎を培う。	レポートの添削や面接指導にファミリゼーションスキルを活かし、自己の在り方、生き方について考察を深める問いかけを行っていく。	学校評価アンケート(生徒、保護者、教職員) 授業アンケート 成績状況 教職員の自己観察書
		新教育課程の3観点の評価をレポートや面接指導で実現する方法について研究をしていく。	学校評価アンケート(生徒、保護者、教職員) 授業アンケート 成績状況 教職員の自己観察書
		IOT教育を推進していくため、オンデマンド教材を作成し生徒に提示する。	学校評価アンケート(生徒、保護者、教職員) 授業アンケート 教職員の自己観察書
2	CHUOハーモニックプランに基づき、社会において自立できる生徒を育てる。	CHUOハーモニックプランに基いて、自らを尊び、社会性を育む取り組むを学校の教育活動全体で行い、社会的職業的自立を目指す。	学校評価アンケート(生徒、保護者、教職員) 生徒指導支援資料 教職員の自己観察書
		ハーモニックプランの各要素(自らを尊ぶ、基本的な生活習慣、規範意識、コミュニケーション能力、チームワーク、シンキング、アクション)要素を段階的に実装させていく教育活動を行っていく。	学校評価アンケート(生徒、保護者、教職員) 教職員の自己観察書
		自己理解から進路実現までを意識した系統的なキャリア教育を行っていく。	学校評価アンケート(生徒、保護者、教職員) 教職員の自己観察書
3	生涯を通じて自主的に健康で安全な生活を送ることができる実践力を育てる。	SCやSSWを活用した校内連携(チーム支援)を促進し生徒指導・支援体制の充実を図り、生徒の生活の基盤をつくる。	学校評価アンケート(生徒、保護者、教職員) 生徒指導支援資料 教職員の自己観察書
		アンガーマネジメント研修等を通じて、職員指導支援力の向上と生徒の感情コントロール力の育成を図る。	学校評価アンケート(生徒、保護者、教職員) 教職員の自己観察書
		これまでの通信制の業務や指導のあり方を見直し仕事の効率化を図る。	学校評価アンケート(生徒、保護者、教職員) 教職員の自己観察書

学校関係者評価	
実施日(令和4年3月)	
評価	意見・要望等
3	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の学校改善・点検アンケートの結果を見ると、学習指導に対する生徒の評価は、「多くの先生方は、分かりやすい授業をしてくれる」の数値は若干下がったものの、「授業態度など様々な観点から評価をしてくれる」といった項目に対する肯定的評価ととも9割を超えており、生徒の満足度は高い。先生方が日頃から努力・配慮を重ねた結果であると高く評価できる。ただし、授業アンケートの結果では、「板書」で10%ほど、「授業の進む速さ」では20%以上、数値が下がっているため、その原因把握に努め、授業改善を引き続き取り組んでいきたい。 「ICT教育を推進していくため、オンデマンド教材を作成し生徒に提示する」との目標の下、コロナ禍においてはオンライン授業やオンデマンド型の授業も実施したと思われる。具体的にどのように行われたのか、資料が送付されていないので判断できないが、効果的な授業作り今後も取り組んでいきたい。ただし、オンデマンド型の授業については、生徒が動画を早送りをしたり、他のこと併行して視聴したりということもあり、報道等でも問題が指摘されているので、生徒の学び方や授業の効果、理解度をしっかりと確認するよう工夫が必要だと考える。 令和3年度のアンケートでは、保護者は良い評価だが、生徒、職員は悪いので改善の余地がある。教師が通信制のレポートや面接指導に議論を収束させ、合意形成をサポートする技能が身につくようにしたらどうか。 生徒の家庭での学習時間が短いので、もう少し多くの時間を勉強するようにさせた方がよい。 肯定的回答が、過年度と比較して保護者はよいが、生徒職員は悪いので改善の余地がある。教師が面接指導やレポート指導について合意形成をしていく必要がある。 生徒とのコミュニケーションを深めることは大変複雑だと思いますが、教職員が目標に向かって努力していることが感じられる。「ファミリゼーションスキル」「思考を深める問いかけ」などをわかりやすく具体化していくことが必要である。
	4
3	<ul style="list-style-type: none"> 選択肢が変更となったことで一概には比較できないが、生徒からの「学校には悩みを話したり、相談したりすることのできる人がいる」、「生き方や道徳について考える機会がある」といった項目の数値はほぼ横ばいであり、保護者による「子どもの悩みや問題について相談できる体制が整っている」との評価は向上している。一方で、教員では「学校においては、生徒が悩みなどを気軽に相談できる環境が用意され、職員が協力して指導支援できる体制にある」の項目の評価は10%ほど下がっている。通信制ということで指導上の難しさがあると察せられるが、今後とも、SCやSSWとも連携し、教員個々の強みを発揮して、チーム学校として生徒の心の育成に取り組んでいきたい。 生徒の複雑な家庭環境の改善や生徒の精神的なケアを行っていくためにもスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用を行っていく必要がある。また、アンガーマネジメント等の機会を充実させて、生徒の気持ちを制御する力、元気を取り戻す弾力性を付けていく必要があると思う。複雑な家庭環境の生徒で大変であるが、研修を行って社会で必要とされる力のトレーニングを行ったことは、よかつたのではないかと。 ヤングケアラー問題は、単に学校教育の問題ではなく、社会全体の大きな課題だと思う。そうした問題について本校のように校外に向けて発信することは大切な取り組みである。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。